

## 2021 年度支部活動【中国支部】開催報告 「散在地域における子どもの日本語教育を考える」

主催：公益社団法人日本語教育学会  
後援：公益財団法人山口県国際交流協会  
開催日：2022 年 2 月 20 日（日）13:30-17:00  
会場：オンライン  
参加人数：95 名（会員 57 名，一般 38 名）

中国支部活動「散在地域における子どもの日本語教育を考える」を 2 月 20 日（日）にオンラインで開催しました。中国支部の優先受付を実施しましたが、中国支部だけでなく、北は北海道から南は沖縄まで様々な地域から多くの申し込みがありました。当日は欠席者だけでなく途中退席される方もほとんどなく、今回のテーマへの関心の高さが窺えました。

前半は「外国につながる子どもの教育支援のためのネットワーキング構築—外国人散在地域の事例から—」というテーマで、大正大学の中川祐治さんにご講演をいただきました。日本語指導が必要な児童生徒の増加と多様化とともに、外国人の「集住」と「散在」の二極化が進行している現状、外国人散在地域が抱える子どもの教育支援の課題、取り組み事例の実践例として、福島県、大分県の事例を具体的にお話ししてくださいました。

講演（1 時間）と質疑応答（15 分）の後、休憩を挟んでから、後半は「山口県における子どもの日本語教育の取り組み」として、山口市（こどものための日本語教室）、防府市（こどものための日本語教室・防府会場）、長門市（ながと日本語クラブ）の 3 つの日本語教室から実践報告をしていただきました。それぞれの教室で活動を始められた経緯、実践事例、成果と課題、今後の活動に向けた目標を中心にお話ししてくださいました。参加者からの質疑応答の後、前半の講演者である中川さんから講評をいただきました。

支部活動終了後の参加者アンケートでは、「散在地域だからできないというのではなく、『散在地域だからこそできる』という視点がとても良かった」「『まずはやってみよう』という姿勢がとても参考になった」「他機関との連携を大切に、支援を持続させていく形を模索されている様子に学ぶことが多くあった」など、講演や実践報告を通して、新たな視点を獲得の機会になったことや、各地域の状況や取り組みが参考になった、自分も勇気づけられたという声が多く聞かれました。

一方で、「参加者同士が意見交換する時間があればさらに嬉しかった」「課題共有できるような事例を聞きたかった」などの意見もあり、今後はオンライン上でも参加者同士が意見交換・情報共有する場を設けていくことができると考えています。

オンラインでの開催ということもあってか、参加者の約 4 割が中国支部で、約 6 割が中国支部以外からのご参加でした。また中国支部の催しに初めてご参加された方が約 7 割を占めました。学校教員や日本語教師、ボランティア教室の方が大半でしたが、国際交流協会や議員の方もいらっしゃいました。オンラインにより地域を越えてつながりを持てるメリットを生かしつつ、中国支部のつながりも一層深まる活動につなげていければと思います。

年度末にもかかわらず、多くの方々にご参加いただき、関係者の皆様方にも多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

（報告者：中国支部活動委員：永井涼子・御館久里恵・中東靖恵）

